令和５年　市政ふれあい懇談会要旨

■開催日時　令和５年５月２７日（土）１０時～１２時
■開催場所　我孫子南近隣センター
■参加者　　市民１５名
■出席者　　星野市長、山元企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等 14 名

市　民：水害対策について質問させていただきます。

令和 4 年 9 月 17 日に開催された令和 4 年度若松地区浸水対策事業住民説明会で配布された資料によると、手賀沼の水位は、灌漑時平水位 YP2.2 メーター、非灌漑時平水位は YP1.8 メーターです。若松地区雨水整備の排水計算書、これによりますと全ての排水区の排水口は、灌漑時も非灌漑時も一年中手賀沼の水位よりも低くなっています。

住民説明会治水課の資料になりますが、これにあります住民説明会の治水課資料の７ページの上半分。高段地区の排水方法（自然排水バイパス管）にはこう書いてあります。高段地区の排水は高段地区専用の管渠バイパス管により、自然排水する手賀沼の水位上昇時にも排水が可能と書いてあります。この流量計算書によりますと、現在工事中の第 4 排水区バイパス管の場合、排水口管番号 125 の管底高が YP0.459 メーターです。それから排水口管番号 125 には樋管のゲートはありますが、ゲートを閉鎖していないため、灌漑期平水位 YP2.2 メーターおよび非灌漑期平水位 YP1.8 メーターの場合、管底高は YP0.459 では手賀沼の水が逆流してきます。水が逆流してきている状態では、自然排水、自然流下はできません。若松の第 1 から第 5 排水区だけではなく、高段地区も全てゲートを閉鎖して、ポンプ排水しなければなりません。若松地区雨水整備の排水計算書、流量計算書ですが、この数字に照らすと常に手賀沼の水が管内に逆流してきている状態で、自然排水はできないにもかかわらず、治水課の住民説明会でのバイパス管は自然排水するという説明は、住民を初め多くの関係者に誤解を与えるものではありませんか。以上です。

治水課長：今のご質問については、何度もいろんな方からご質問をいただいておりまして、確かに排水管の中に水は入っております。ただ、管の中に入った水は堤防を介して手賀沼の水位とその水位差によって流れるというのを自然排水と言っているものであり、管の中に水がないとは言っておりません。

市　民：私も子供の頃、家が床上浸水したことがあり、若松の方々が大変な思いをしているのはわかりますので、対策をしっかりしていただきたいと思います。そして今日の私の質問は、二つあります。なぜ、この市政ふれあい懇談会を根戸、久寺家地区の 2 ヶ所で開催していないのでしょう。この 10 年間を調べますと、1 年に 2 回開催す

るところもあれば、根戸のように 10 年間に一度も開催されたことがないということで、なかなか市の考えが浸透していないと思います。開催にあたっては、年に 2 回ということで、１回を 5 ヶ所で、3 日間かけて行って、大変な苦労だと思います。

ただ、根戸には近隣センターがありますので、ぜひ開催していただきたい。二つ目の質問は、市のロビーに資料室があります。ここに、我孫子市コミュニティ変更計画書があります。根戸近隣センターは指定管理者制度にはふさわしくないということでしたが、担い手不足から 3 年前に根戸地区まち協は解散しました。この変更計画書には、近隣センターの管理運営の課題として、特定の住民の負担が生じているため、地域に管理運営を委託する方法には、今後無理が生じることも考えられるとあります。

そこで、今後は他機関への委託を含め、多様な管理運営方法を住民と検討していく必要があると書いてあります。5 年前からさんざん協議してきました。担当課長、部長。担当課長から総務部長になった方、そして副市長、はたまた総務企画常任委員会の委員。誰もこの変更計画書の存在をうかがわせる発言はありません。3 年前、副市長の陣頭指揮で行った、まち協へのアンケートですが、総評には、この変更計画と同じ内容が書いてあります。このことについて、計画書を作ったら終わり、担当者が変わったから終わりとならないよう、再度、この変更計画書をお読みいただきたいと思います。よろしくお願いします。

市民生活部長：我孫子市コミュニティ計画の変更計画書については、今後、担い手も少なくなっていくことにより、運営が厳しくなっていくということから、計画書を策定したわけです。実際、他の地区では運営してこれたということもあり、具体的な検討は行っておりません。根戸のまち協の運営が難しいということで、今現在は市の課長が会長となって運営しておりますが、私共としても、今までのように地域の皆様だけで運営していくことが難しいということは、重々承知しております。今後は、また地元の皆様の意見を聞きながら、どういう方法で運営していくかということについて、協議を継続していきたいと思っているところです。再度、検討してまいります。

市　長：ふれあい懇談会ですが、基本的に今、我孫子、天王台、湖北、新木、布佐という 5 地区で年 2 回開催をしている状況です。それぞれの地区で、南北に 2 箇所近隣センターが在る場合、または公民館のような施設があるところは、なるべく、南と北で春と秋に分けながら、交互に開催しています。ただ湖北と新木については、2 ヶ所ありませんので、同じ場所で行っています。以前、湖北地区公民館で開催したこともありましたが、湖北地区からも新木地区の人からも非常に行きづらいという声があって、元に戻した経緯があります。そういう状況ですので、このふれあい懇談会については、それぞれの地域の一番集まりやすいところを会場にする。ということをご理解いただくしかないと思っております。

市　民：今日は、せっかくたくさんの職員の方がいらっしゃるのに、参加者がこんな

に少ないのはすごく勿体ないと思います。この地域は今もお話がありましたが、北と南を合わせると、我孫子市の中では人口としては結構多いはずです。若い方にも、ぜひ、参加してほしいと思いますし、広報でのふれあい懇談会の案内が少し小さいので、大きく皆さんにお知らせしていただきたいと思います。それと、資料の中でいいますと１ページの学校給食の管理運営、それから子供たちが自分らしく学校生活を送るためというところで、若い方に新しく住んでいただくための行政情報の発信、3ページのシティプロモーションの推進ということを要望したいと思います。我孫子市の学校給食は、私、子供が小学校に入学するときに我孫子市に引っ越してまいりまして、とても教育環境の良い中で子育てさせていただいたと思っております。特に給食はその頃から続けて全学校自己調理方式で栄養士さんが各学校にいて、とても良い給食を提供していただいています。アレルギーのお子さんも年々増えており、我孫子市内でも、200 人以上のお子さんが食物アレルギーをもっているのですが、我孫子市はきめ細かく対応して、給食を行っていると思います。今後も続けていただきたいというのが一つです。もう一点は、何回か、市長にも要望させていただいて、基本的には現状通り、続けていただけるということですので、とてもありがたいのですが、せっかくいい給食を実施しているのですから、内外にもう少しお知らせしていただけたらと思います。我孫子市の子供医療費の助成もそうですけど、本当に他市に比べて早くから良いことを続けておられますので、ＰＲが足りないのではないかと思っています。しつこいようですが、我孫子市の給食は、県内では一番だと私は思っています。若い方に住んでいただけるよう、この事業を進めていただきたいと思います。

市　長：私自身も我孫子の小学校中学校を卒業していまして、教育委員会が把握している、学校給食の開始よりも早く、中学校は学校給食をしています。実際に私が中学校を卒業したときは、既に湖北中学校では学校給食がありました。けれども、教育委員会の資料には、その年度は、中学校給食を実施していないことになっています。

当時、小学校と中学校が隣り合わせだったものですから、小学校の給食を中学校にも提供したことによる、いわゆる親子方式によって行われていました。我孫子の学校給食は、長い歴史の中でそれぞれの学校で栄養士を配置しながら、配慮してきたというふうに認識をしています。だからこそ今、１９校の小・中学校がありますが、県の職員の栄養士は半分しか配置をされていません。残り半分は、市の職員として栄養士さんを採用して、学校現場に送っております。今、ご指摘のように他の地区、他の市から我孫子の学校に配属された先生方が、我孫子の給食がすごく美味しいと言って、びっくりしています。だからと言って、我孫子の給食が自校方式だから我孫子に引っ越してくるかどうかは、また別問題だと思います。この給食の中では、白樺派のカレーを全校で提供していることで、結構変わった取り組みをしているということから、今マスコミの方でも、学校現場で白樺派のカレーの日を少し取り上げようという話も出ていて、その協力をお願いしているところです。市のＰＲだとホームページが主で、ホームページは見てくれないとどうしようもないということもあります。ただ、テレ

ビの場合は、向こうが興味や関心を持ってくれないといくら売り込みに行っても採用されません。今、言ったように、白樺派のカレーをテレビが取り上げてくれそうなので、教育長を中心に学校現場が対応するようにしているところです。

先ほど言われた、ふれあい懇談会の若い人の参加については、他の会場でも同じ質問が出ましたが、やはり、ふれあい懇談会のような幅広いテーマですと、大体若い人は出席されません。例えば、学童保育の問題、あるいは保育園の件、あびっこクラブなどの時には、逆に集まるのは若い女性ばかりです。いわゆるお子さんを抱えている家族、お母さん方の方が圧倒的多数で来ています。やはり、若い人たちが参加するものは、テーマを絞って行っていると理解をしていただきたいと思います。このふれあい懇談会は、若い人にはちょっと難しすぎて二の足を踏んでしまうという声はいただいております。また、このような状況になることは、こちらでも承知しているところです。

市　民：今日は本当に、市長をはじめ、各部長さん関係課長さん、本当ご苦労様です。これだけのスタッフが揃っておりまして、参加する人数がまことに寂しいということで、先ほどの方の発言もありましたが、本当にもったいないです。ぜひ、若い人も参加していただきたいと思います。私からの質問は、手賀沼の沿岸の工事がずっと数年来進められているのですが、これは我孫子の行政範囲ではないのかもしれませんが、かなり年数が経っています。対岸の柏市みたいに、立派な湖畔の道路ができれば、これは素晴らしいなという期待はずっとしているのですが、この辺の進捗については、どのようになっているのか、状況をお聞かせいただければと思います。

建設部長：堤防の工事が終わりまして、今堤防の管理用道路の舗装ですとか、それから堤防の排水を作るような工事をしています。それから、今おっしゃられた堤外地、要するに堤防の中の方に、遊歩道のようなものを作ってる最中です。今、出来上がってきているのは、ちょうど我孫子高校の前あたりで、堤防の外といいますか、沼側の方に降りられるように作っております。ただ、反対側の柏市のような自転車道と歩行者が並んで通れる大きなものではないのですが、今作ってる最中だと思います。

市　民：いつ頃できますでしょうか。

市　長：千葉県が工事をしています、堤防の一番上のところは管理用道路として、そして堤防の沼側に歩道という形を今予定しているのですが、堤防自体は大体終わりました。通れる時期はまだ決まっていません。決まりましたら、広報やホームページでお知らせしていきたいと思います。柏市側の遊歩道というのは、あれは北千葉導水事業といって、利根川と江戸川を結んでる直径 3 メーターぐらいの大きな管があって、それの上部を利用して使っています。柏市が堤防を造ったという人がいますが、あれは、国の治水・利水のための工事の上部利用というふうに理解していただければと思

います。逆に、あの導水管が我孫子の方を通ってくれば、我孫子に堤防と遊歩道のような道路があったことになります。ご存知のように、我孫子側は住宅が近くにあり、そういう工事が出来なかったため、柏市側に造られたものです。

市　民：先ほど私の質問に対して治水課長の方からご説明がありましたけれど、そこで質問ですが、水位差で排水ができることを自然排水だとおっしゃっておりましたけれども、住民説明会の資料なんですが、これをご覧になればわかるように、手賀沼の上に雨が降ってません。これはおかしいです、間違いなく手賀沼側も雨が降ります。しかもネットにも載ってるわけで、皆さんも見れます。ぜひご覧なってください。手賀沼の上に雨が降っていないような図を書いてですね、雨が降っている陸の方が水位が高くなるから水が流れるなんて、そんなこと誰でもわかります。普通であれば、おかしいだろって言いますよ。

治水課長：手賀沼の水位が上がった時に若松に雨が降って、若松の地区で水害が発生するような雨が降ったとしても水位差で流すことができる。という意味で矢印を手賀沼側に書いているのですが、手賀沼側の水位が上がれば逆の向きのときも当然あると思います。そのような時でも、若松の地区では、水が溢れないように、当然、水圧がかかる部分もありますので、そこはしっかり安全対策を持った構造にしております。出来上がった管についても、普段からマンホールから水が吹かないようにしっかり点検を行って、安全面を考慮した構造になっており、常時、安全対策で点検を行って、水害のないように監視はしております。さらに手賀沼の水位が上がるような場合には、樋管のゲートがありますので、そこで締めて若松地区に水が地上に出てこないように操作を行うようになっております。ご理解いただければと思います。

市　長：今、ご指摘のように、確かに手賀沼に流れる水は柏、松戸、流山など大堀川や大津川を通って、非常に多くの水が入ってきます。特にＴＸ沿いの開発が進んだために、柏、流山からの水量がだいぶ早く手賀沼に来るようになりました。それも併せて台風、特に雨台風のような場合には、我孫子市と下流事務所の方で連携をとって、台風に備えて手賀沼の水位を 30 センチまたは 40 センチ下げるよう、事前の調整をしています。それで台風が通った後に、大体元の位置に戻るようにしています。今の時期ですと、田植えの最中ですから、手賀沼の水は YP2.2 メートル、田んぼの刈り入れが終わる頃には 1.8 メートルまで下げます。その下げる調整をしているのは、この手賀沼の最下流の印西に国交省の排水ポンプがありますから、そこで事前放流をしています。場合によってはポンプアップということもありますが、国交省の利根川下流河川事務所の方と連携をとりながら、手賀沼の水が溢れないように調整をしているということがあります。それを踏まえながら、あとは若松地区の中に入り込まないように、水門で締めたり、あるいは開けたり、市の方でも調整をして、国とも連携をとりながら、対応していきたいと思っています。

市　民：若松地区に手賀沼の水が入り込まないようにしようとしていると、市長が言っているのは分かるのですけれど、でも実際今ですね、水位が 2.2 メートルですけれども、本ポンプ 4 基がありますけれども、バイパス管の方はゲートが開いたままですからもう逆流してます。排水の方も可能になっていないのですよ。2021 年 8 月の若松地区ですが、水害の原因で 119 番地のような道路冠水が起こるわけですが、これからも起こってきます。考え方が間違っているのですよ、治水課の考えは。逆流させるからです。逆流するから噴出するわけです。わざわざ手賀沼の水が逆流させるような施設にお金を使ったわけです。そのような施設にお金を使うのが市政なんですか。

市　長：私が市長になった時に、我孫子の街が水害に弱いということを初めて知りました。手賀沼の大きな水害については、昭和 13、16 年頃にありました。その状況とまた違う住宅地の水害があるというのも知りました。その中で、若松はご存知のとおり、手賀沼の埋立地ですから、地盤沈下などの部分も含めながら、どういう形の治水対策をするかというのは必要だと思っています。排水路の中に全く水がないのが当たり前かというと、他の地区の排水路、例えば、つくし野だったり、布佐の街の水路についても、既に水は入っています。若松の土地の下にある管に、水をゼロにするかどうかというのは違うものだと思っています。管の中に水がゼロというのであれば、他の水路は全部水がありますから、ゼロにはなっていません。そういう状況の中で、あとは治水の考え方として、貴方がおっしゃる考え方もあるのかもしれませんが、若松に住んでいる、大多数の方が今の市の方法で理解をしている中で、一つずつ行っていることであります。そのご意見はお伺いをしておきますけれども、市は、国や県とも一緒になりながら、進めていきます。なお、手賀沼の治水対策で道路冠水についてはある程度仕方ないところがあるというふうには思ってます。

　ただ、市としましては、まず床上浸水をなくそうというところから行っています。その次に床下浸水をなくし、道路冠水が一番後回しになるというのは、皆さんも理解をしていただけることだと思っています。